

# 平成30年度 学校(自己)評価書 中等部

東海大学付属静岡翔洋高等学校・中等部

5～1は教員評価(5よい 4おおむねよい 3どちらともいえない 2やや不十分 1不十分)

分野	重点目標	成果と課題	評価	改善策
学校運営 (教頭)	年間教育目標の実践と点検・現状における課題の解決および改善に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の特色が明確に打ち出され、一人ひとりの教員が、教育方針を理解し、熱心に教育に取り組んだ。</li> <li>・教職員は生徒募集目標達成の為に保護者・地域との連携や情報発信に努めた。</li> <li>・「変わる静岡翔洋」のローガンの下、積極的に学校改革に努め、周囲から高評価を得た。</li> <li>・非常勤講師の割合が高く、教員間の意思の疎通・連携が難しかった。</li> </ul>	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園・学校の基本的な教育方針を十分に理解し、具体的な目標を持って日々の授業や生徒指導に取り組む。</li> <li>・本校の生徒の頑張りや教育の特色をHPやFBに取り上げ、広報誌の配布の二本立てで実施し情報発信に努める。</li> <li>・業務の合理化を行い、無駄を省き、生徒と接する時間を増やす。</li> <li>・非常勤講師との連携を教科・学年ベースで密にする。</li> </ul>
学習指導 (教務主任)	基礎学力の定着と授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週火曜・金曜の朝の学習とそのほかの曜日での朝の読書により、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を始めさせることができた。また朝の学習においては、満点でないと放課後再試を徹底しているため、生徒の意識は向上した。</li> <li>・iPadを用いて授業の指導方法など工夫がなされるようになった。</li> <li>・年間3回の授業評価アンケートを通じて授業の見直しを行い、授業改善を図った。</li> <li>・放課後の7・8時間目を設定し、3年を対象とした習熟度別補習をトータル40時間実施した。基礎学力の向上はもとより、高校進学に対する意識が向上した。</li> <li>・家庭学習の習慣を完全に身に付かせるまでには至らなかった。</li> <li>・学習のために図書館を積極的に利用させることができなかった。</li> </ul>	3.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のつまづき箇所の確認を行い、ICT環境(含むスタディサプリ)なども利用して、学び直しの機会を定期的に与えることに努める。</li> <li>・研究授業や、相互授業参観などを通じて、授業力を上げる努力をする。</li> <li>・家庭学習課題の内容に図書館を利用しないと対応できないものを取り入れる。</li> <li>・学年主導による計画的な家庭学習課題を提示し、達成度を確認する。</li> </ul>
クラス指導 (生徒指導主任)	遅刻・欠席・早退のないクラスづくり いじめのない、お互いが高めあえるクラスづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任は生徒間の好ましい人間関係の構築に気を配り、いじめの見られないクラス・学年づくりができた。</li> <li>・担任は日頃から個々の生徒に声をかけてクラス・学校の一員としての自覚を促し、行事においてもクラスを団結することができた。</li> <li>・各学年が遅刻や欠席の少ないクラスづくりに努め、遅刻や欠席は特定な生徒だけになった。</li> <li>・昨年同様、学年が低い程、生徒は学校が楽しいと評価している。</li> </ul>	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関係の講話やスポーツの機会を増やし、地域から歓迎させる中・高生であるように、意識付けと指導を日常的に行う。</li> <li>・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理ために情報交換を行い、頭髪、服装の指導にも常に心がける。</li> <li>・公共の場でも常に生徒が本校の一員であることを自覚した行動ができるように指導を行う。</li> </ul>

生活指導 (生徒指導主任)	あいさつ、礼儀、身だしなみ、美しい環境作りの指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度も生徒部として、「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境づくり」を目指し活動した結果、生徒に浸透してきていると感じる。特に学校説明会などで来校した関係者の声やアンケートから評価されている。</li> <li>・教職員は校内の設備、整備の指導を意識して行った。いつでも、どこでも常に美しい環境を今後とも継続していくことが必要である。</li> <li>・生徒の頭髪、服装に関しては、生徒の自覚を促すと同時に全教員で同じ視線で徹底していく必要がある。</li> </ul>	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々に「挨拶、礼儀、身だしなみ、美しい環境づくり」を目標に教育活動を実行していることを認識していただけるように日常的に生徒指導をしていく。</li> <li>・スクールバス利用者がかなり増えたため、登下校の自転車マナーについて、近隣からの苦情も減少し、事故も減ったが、今後も危険箇所の指導は必要である。</li> <li>・担任と教科担当は生徒の学習環境をきちんと管理することに心がけ、始業前の机の配列、挨拶の指導にも常に心がける。</li> </ul>
進路指導 (進路指導主任)	翔洋高校への具体的なイメージづくりと進路決定についての早期化	<p>翔洋高校単願100名以上を目標とし、一般と同じ翔洋高校のオープンキャンパス・入試説明会に参加することで、新たな視点での翔洋高校イメージづくりを進めた。並行して独自の入試説明会では、高校教頭・教務主任・進路主任と多くの教員に発信してもらい、見えない部分の掘り起こしをつとめた。日常的に進路について担任との面談を繰り返し、進路希望について確認を促した。最終的には77%を超える106名の単願者で受験をすることができた。今年度も評価点が低いにもかかわらず、公立高校への裁量枠が適用される場面が数多く見られ、最終的に公立高校のみ受験する大変リスクの大きいケースが2桁になってしまったことは、今後の重要課題と言える。</p>	3.5	<p>翔洋高校への基準点について、公立との差による進路指導が難しく、担任もその矛盾に苦勞した。先に本校の評価基準をきちんと見直し、評定そのものに矛盾がない状態をつくった上で、共通の基準点での進路相談ができるように、見直しをすることは急務である。</p> <p>また、中学2年での海洋学部・湘南校舎への見学は大きな意味があると思われる。</p>
(生徒特別活動主任)	生徒会活動と部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動への取り組みに対する評価は、生徒、保護者、教職員ともに共通して高い。</li> <li>・委員会活動や係の仕事への取り組みを通じた指導に工夫が必要と感じられました。</li> </ul>	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強と部活動の両立、部活より勉強、と言いつつも学習への取り組みの低さは今後の課題である</li> </ul>
研究・研修 (研究主任)	公開授業の定期化及び教員研修を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け公開授業を2回実施し、多数の参観者を頂けた。</li> <li>・教科別研究授業を実施、教員研修を行い授業力アップに努めた。</li> <li>・年三回の学校評価アンケート実施、教員にすぐに報告し、改善を促した。</li> <li>・学校関係者評価委員の授業見学もあり、手厳しくも暖かい励ましの言葉をいただいた。</li> <li>・授業評価アンケートと公開授業の結果でベストティーチャー賞を決める。</li> <li>・学校報を月1回発刊することで、生徒・保護者へ校内の様子を伝える。</li> <li>・2年生社会科研修旅行を滞りなく実施させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年からベストクラス賞導入し、生徒の意欲向上に繋げる。</li> <li>・スタディーサプリの積極的利用を促す。</li> <li>・道徳の授業内容の充実をはかる。</li> <li>・教員研修及び教科別研究授業を実施することで、今後の社会におけるニーズに答えられるように、ICT教育・アクティブラーニングの手法を用いて、更なる授業のスキルアップを目指す。</li> </ul>	
その他	生活習慣プロジェクト実施			